まち・ひと・しごと創生

津 久 見 市 総 合 戦 略
（進ちょく状況報告）

平成２９年２月

津久見市

目　　次

１．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．津久見市の人口の現状　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
（１）平成 27 年国勢調査の結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
（２）年齢３区分別人口　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
（３）人口動態について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

３．重要業績評価指標（ＫＰＩ）の進ちょく状況と主な関連事業　・・・・・　６
基本目標１：住みたい、住み続けたい、魅力あるまちへ　・・・・・・　６
基本目標２：子育てに選ばれる、産み、育てやすい環境づくり　・・　11
基本目標３：安定した雇用の創出と労働力の確保　・・・・・・・・・　13

４．地域創生交付金事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
（１）地域創生先行型交付金事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
（２）地域創生加速化交付金事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

５．総合戦略の改訂　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

１．はじめに

本市では、平成 27 年 10 月に、加速する少子高齢化、人口減少社会に対応し将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるため、

「１．住みたい、住み続けたい、魅力あるまちへ」

「２．子育て世代に選ばれる、産み、育てやすい環境づくり」

「３．安定した雇用の創出と労働力の確保」

の３つの基本目標を掲げ、平成 27 年度から平成 31 年度までの５年間を計画期間とする「津久見市総合戦略」を策定しました。

総合戦略は、３つの基本目標の下に基本的方向や具体的施策等を定め、重要業績評価指標（ＫＰＩ）を設定し、施策展開を進めています。

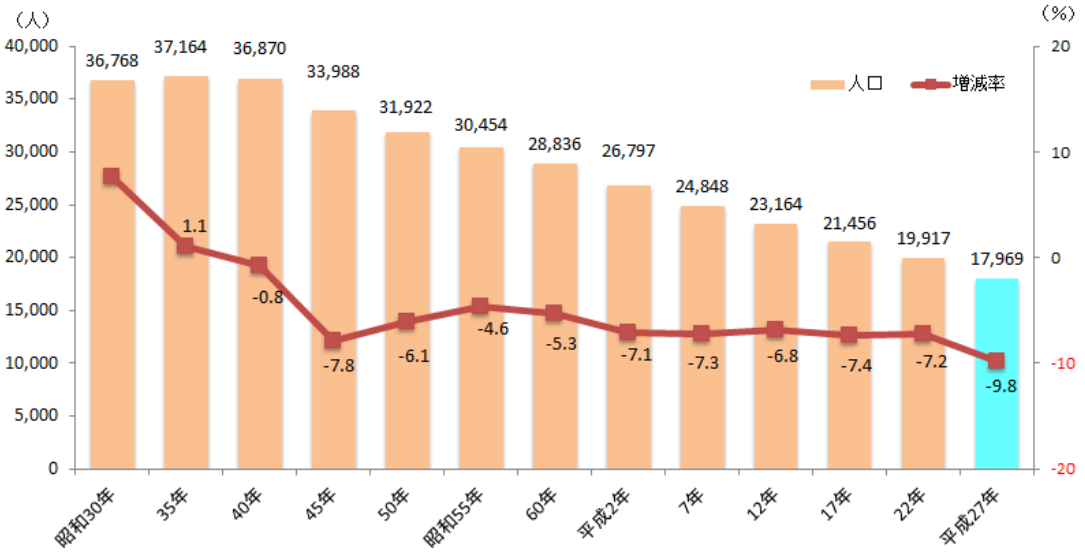
２．津久見市の人口の現状

（１）平成 27 年国勢調査の結果

平成 27 年に実施された国勢調査では、本市の人口は 17,969 人と公表され、前回平成 22 年の調査と比較して 1,948 人、9.8%減少となっており、平成 17 年と平成 22 年の比較では減少率 7.2%であったことから、人口減少の流れは更に厳しい状況となっています（図１）。

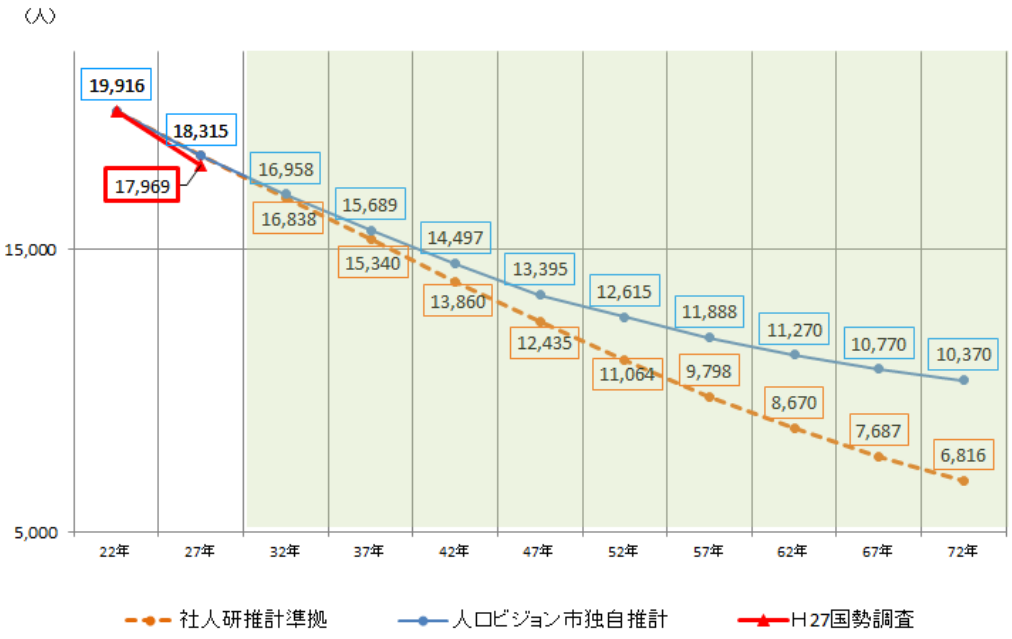
津久見市人口ビジョンにおける独自推計の人口推移では、平成 27 年の推計値は 18,315 人であり（社人研準拠推計値と同数）、346 人下回る結果となっています（図２）。

【図１　総人口の推移】



資料）総務省「国勢調査」

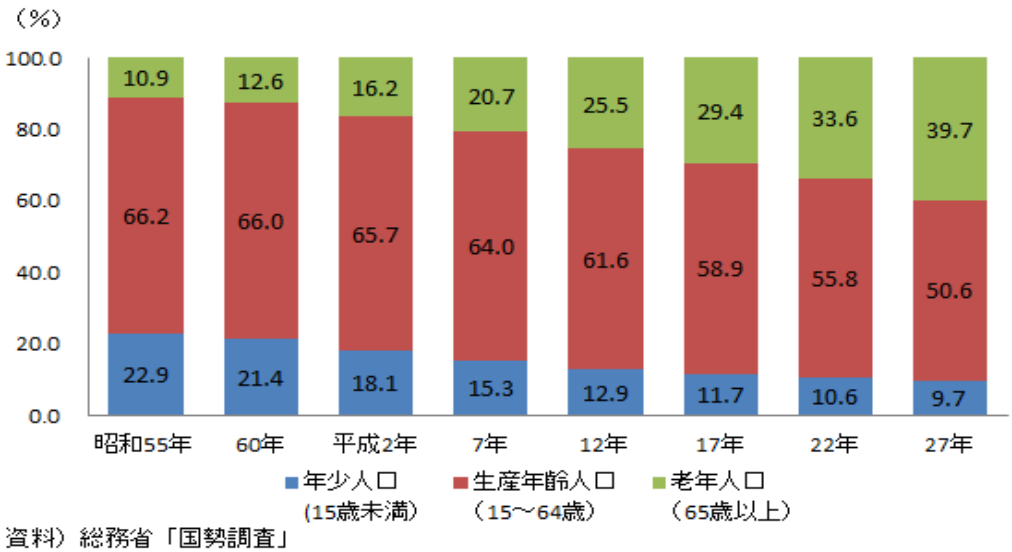
【図２　津久見市の人口の推移と長期的な見通し】



（２）年齢３区分別人口の推移

年齢階層別に本市の人口をみると、平成 27 年には 15 歳未満の年少人口は 9.7%（0.9 ポイント減少）、15～64 歳の生産年齢人口は 50.6%（5.2 ポイント減少）、老年人口 39.7%（6.1 ポイント増加）となっており、少子高齢化が急速に進行しています（図３）。

【図３　年齢３区分の人口推移】

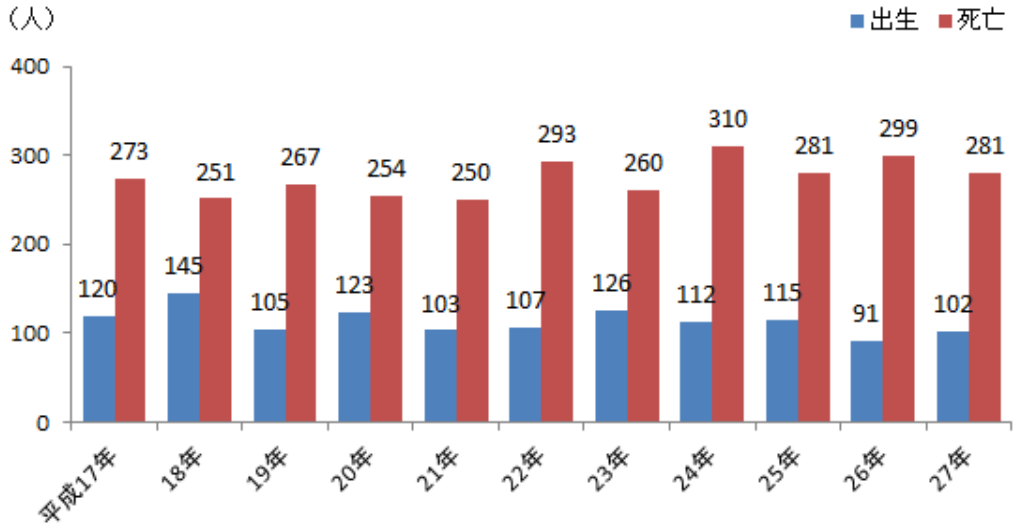


資料）総務省「国勢調査」

（３）人口動態

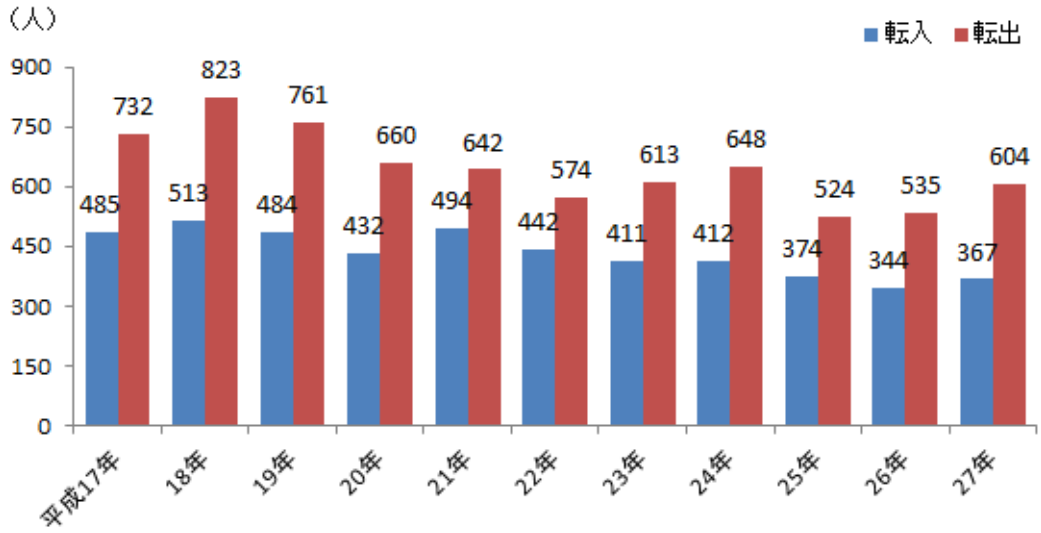
自然動態は、平成 27 年の出生数 102 人に対し、死亡数が 281 人と 179 人の自然減少となっています（図４）。社会動態は、平成 27 年の転入者 367 人に対し、転出者が 604 人と 237 人の社会減となっており（図５）、１年間で 416 人の人口減少となりました。

【図４　自然増減】



注）対象期間は前年の10月1日～9月30日
資料）大分県「大分県の人口推計」

【図５　社会増減】



注）対象期間は前年の10月1日～9月30日
資料）大分県「大分県の人口推計」

平成 27 年の転入・転出動向を年齢階層別にみると、「35～39 歳」が転入者 21 人に対し、転出者 69 人であり 48 人の転出超過と最も多くなっており、次いで「20～24 歳」が 46 人の転出超過となっています（表１）。

また、平成 27 年の地域別の人口移動をみると、県内の他市町村への転出が約７割を占めており、県内転出者の約５割が大分市に、次いで臼杵市が多くなっています（表２）。これまでの傾向と同様に、生活利便施設や医療施設の立地、ニーズにあった賃貸アパート・分譲宅地を求め、通勤圏域である「大分市」や「臼杵市」へ転出していると推測されます。

【表１　年齢階級別にみる人口移動】

（単位:人）

年齢		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	転入－転出（平成27年）
0～4	転入	41	23	39	23	31	32	
	転出	23	32	38	36	33	34	-2
5～9	転入	20	14	13	20	11	13	
	転出	21	26	30	13	11	18	-5
10～14	転入	7	7	9	8	9	7	
	転出	11	12	11	6	12	10	-3
15～19	転入	17	17	16	11	17	11	
	転出	56	55	55	47	43	46	-35
20～24	転入	72	62	61	68	53	60	
	転出	126	103	109	94	98	106	-46
25～30	転入	56	94	74	73	55	63	
	転出	103	85	92	73	91	88	-25
30～34	転入	67	42	54	44	32	50	
	転出	70	72	71	68	60	64	-14
35～39	転入	32	33	42	35	44	21	
	転出	48	59	56	36	43	69	-48
40～44	転入	28	25	26	19	18	18	
	転出	17	28	35	34	27	38	-20
45～49	転入	18	19	12	10	14	20	
	転出	21	24	20	18	21	20	0
50～54	転入	24	15	19	19	8	13	
	転出	11	19	31	12	16	16	-3
55～59	転入	23	21	13	14	17	21	
	転出	25	16	20	16	18	18	3
60～64	転入	16	19	18	10	11	12	
	転出	11	26	24	14	16	18	-6
65～	転入	21	19	16	20	24	26	
	転出	31	55	56	57	46	59	-33
合計	転入	442	410	412	374	344	367	
	転出	574	612	648	524	535	604	-237

注）期間は前年の10月1日～9月30日、不明を除く
資料）大分県「大分県の人口推計」

【表２　地域別にみる人口移動】

（単位:人）

地域		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	転入－転出（平成27年）
大分市	転入	112	109	121	102	85	131	
	転出	176	219	232	187	184	213	-82
別府市	転入	21	15	20	12	14	12	
	転出	22	30	17	8	17	19	-7
佐伯市	転入	34	21	29	15	33	26	
	転出	38	42	31	40	21	37	-11
臼杵市	転入	59	55	38	61	43	28	
	転出	63	63	110	54	53	95	-67
その他県内	転入	35	23	34	28	20	24	
	転出	43	27	50	46	54	44	-20
北海道	転入	1	4	6	3	0	1	
	転出	4	3	5	3	1	4	-3
東北	転入	15	11	7	9	2	8	
	転出	8	6	4	9	3	3	5
関東	転入	43	52	39	47	39	32	
	転出	56	41	53	53	51	73	-41
中部	転入	8	8	5	10	7	7	
	転出	12	12	12	6	12	8	-1
近畿	転入	21	28	30	12	21	27	
	転出	25	23	16	16	30	18	9
中国	転入	7	10	17	12	19	6	
	転出	12	9	17	17	17	6	0
四国	転入	11	12	12	4	8	9	
	転出	11	14	11	1	12	6	3
九州	転入	66	56	48	54	48	53	
	転出	69	85	66	64	60	62	-9
海外	転入	7	4	6	5	5	3	
	転出	32	12	21	11	4	5	-2
不明	転入	2	3	0	0	0	0	
	転出	3	27	3	9	15	11	-11

注）期間は前年の10月1日～9月30日、不明を除く
資料）大分県「大分県の人口推計」

３．重要業績評価指標（ＫＰＩ）の進ちょく状況と関連事業

総合戦略においては、「基本目標」と「基本目標ごとの基本的方向」、「具体的施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）」を定めており、平成２７年度末時点でのＫＰＩの実績値は以下のとおりとなっています。

<table>
<tr><th colspan="4">基本目標１：　住みたい、住み続けたい、魅力あるまちへ</th></tr>
<tr><td colspan="4">①　安心して暮らせるまち、暮らしにやさしい活気あふれるまちづくり</td></tr>
<tr><td rowspan="8">重要業績評価指標（ＫＰＩ）</td><td>指標名</td><td colspan="2">新築戸数</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>平成２６年</td><td>３８　戸／年</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年</td><td>５０　戸／年</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年</td><td>４０　戸／年</td></tr>
<tr><td>指標名</td><td colspan="2">空き家バンク、定住支援施策の活用件数</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年度</td><td>１０　件／年</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年度</td><td>２４　件／年</td></tr>
<tr><td>主な関連事業</td><td colspan="3">◆市所有地販売価格の見直し
⇒市が所有する住宅用地２２区画について、販売価格の見直しを実施。見直し後、６件の販売実績（<u>資料①参照</u>）。

◆新築奨励・市内消費喚起事業
⇒住居を取得した方に助成することで定住を促進。併せて助成には市内でしか使用できない商品券で交付することで市内消費を喚起。最大２５万円の助成。
平成２７年度は１３件の交付実績（資料②参照）。

◆移住者居住支援事業
⇒県外から転入する方に新築・改修・引越し・家財処分等に対して補助金を交付し、移住促進を図る。最大１４５万円の補助。平成２７年度は６件の交付実績。平成２８年度から、県内からの転入についても補助対象となるよう制度拡大（<u>資料②参照</u>）。

◆津久見市空家等対策協議会の設置
⇒増加する空家は倒壊の危険に加え、防災・防犯、公衆衛生、景観などへの悪影響を及ぼす問題があることから、総合的・計画的な対策を推進する計画を作成する協議会を設置。</td></tr>
</table>

	◆津久見市空き家情報バンク制度 ⇒空き家バンクの登録促進を図るため、ホームページや市報での周知のほか、固定資産税の納付書に制度案内を同封し送付。また、未利用住宅管理者あてに意向確認のアンケートを実施し、登録を促したものの、大幅な登録増加にはつながっていない。平成２７年度は５件の空き家バンク登録物件の内、１件の成約実績。 ◆津久見市観光戦略の策定 ⇒本市の観光産業の育成、地方創生人材の確保・育成、まちの賑わい創出などの総合的な推進のため、地方創生加速化交付金を活用して策定（※平成２９年３月策定予定）。 ◆防災関連事業 ⇒現在、１０９人の防災士が誕生しており、地域防災力の一層の向上を図るため、津久見市防災士会の設立を準備中。避難路は計画的な整備を実施し、平成２７年度は７地区の整備実績。 ◆津久見観光周遊性創出事業 ⇒「市民と観光客が共に賑わう街なか賑わい創出」を目指して、市民や学生が参加するワークショップを実施。課題の抽出やまちの活性化に向けた施策の議論を重ねた結果、初年度は、つくみん公園にポイントを絞った取組を行うことに決定し、つくみん公園内にインフォメーション的役割を果たす拠点施設としてコンテナ 293 号を設置。フリースペースとしての活用の他、津久見高校商業科の「つくみ蔵」や津久見商工会議所の「ふるさと名物特産品」などによる市内産品の販売を行うなど、賑わい創出・市内各所への周遊促進の取組を実施（**資料③参照**）。 ◆移住・定住ポータルサイト構築 ⇒県内外からの移住希望者に対して、津久見市が移住先の候補となるよう、本市の移住・定住施策、空き家情報、就職情報、暮らし情報などをとりまとめ、多様な情報を総合的に発信する移住・定住ポータルサイトを現在構築中。平成２８年度末運用開始予定。

<table>
<tr><td colspan="4">②　誰もが活躍できるまちへ</td></tr>
<tr><td rowspan="11">重要業績
評価指標
（ＫＰＩ）</td><td>指標名</td><td colspan="2">健康マイレージなどを通じた国民健康保険加入者
特定健診受診率向上</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>平成２５年度</td><td>４１．１　％</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年度</td><td>６５．０　％</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年度</td><td>４５．３　％</td></tr>
<tr><td>指標名</td><td colspan="2">平成３１年度において要介護認定率が県平均を下回る</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>平成２６年度</td><td>市：１９．５　％　県：１９．３　％</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年度</td><td>県平均を下回る</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年度</td><td>市：１７．６　％　県：１８．３　％</td></tr>
<tr><td>指標名</td><td colspan="2">地区ごとの祭りや供養踊りといった伝統行事や体育行事など、住民のつながりを深める区単位の主要な地域活動</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>平成２６年度</td><td>２８８　件／年</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年度</td><td>平成２６年度比１０%増</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年度</td><td>２９２　件／年</td></tr>
<tr><td>主な
関連事業</td><td colspan="3">◆健康マイレージ事業
⇒特定健診･がん検診等の受診率向上や健康づくりへの動機付け及び運動習慣の定着促進のため「津久見市健康マイレージ事業」を実施。自分自身の健康づくりのための「毎日の目標」と、あらかじめ指定する「健康づくりに関する取組み」に参加した場合に、自主的にポイントを付与し、100 ポイント以上達成できた方に特典を贈呈する仕組み。また、平成２８年度から特典のひとつとして、市内幼稚園・保育園・小中学校に社会貢献として寄附できるよう選択を可能とした（<u>資料④参照</u>）。

◆介護予防事業
⇒「ふれあいいきいきサロン」では、作業療法士や歯科衛生士を派遣し、運動機能向上・栄養改善・口腔機能向上など専門的な指導による自律支援に向けた取組を実施。また、一人暮らしの高齢者にサロンへの参加を促すことで､閉じこもりの予防につなげ、要介護認定率の増加を防いでいる。</td></tr>
</table>

	◆まちづくり推進事業補助金（平成 28 年度実施） ⇒「にぎわい創出」や「地域活性化」等まちづくりに繋がる事業を市内各団体から公募し、公開審査の上、補助団体を決定。離島活性化、朝市、スポーツ振興、地域伝統、地域福祉、まちなか賑わい創出など多岐にわたる６つの事業を各団体が実施（**資料⑤参照**）。 ◆生涯スポーツの普及事業 ⇒誰もが楽しみながら継続できるスポーツ･レクリエーションの環境づくりのため、総合型地域スポーツクラブ「エンジョイつくみ」がヨガ教室、卓球教室、ウォーキング教室や陶芸教室など全１９教室を継続して開催。スポーツ少年団対抗の「アジャタ」競技大会にも協力するなど、軽スポーツによる新たな交流も実施（**資料⑥参照**）。

基本目標２：　子育て世代に選ばれる、産み、育てやすい環境づくり

①　子どもを産み育てやすい環境づくり

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	指標名	年間の婚姻数	
	基準値	平成２５年	５２　組／年
	目標値	平成３１年	６５　組／年
	実績値	平成２７年	５８　組／年
	指標名	年間の出生数	
	基準値	平成２５年	１１３　人／年
	目標値	平成３１年	１１０　人／年
	実績値	平成２７年	１０６　人／年

主な関連事業

◆「婚活サポート」推進事業補助金（平成 28 年度実施）

⇒結婚を希望する独身男女を対象とした「出会いの場」を創出する事業を実施する団体を公募し、公開審査の上、補助団体を決定。５団体が市内で婚活イベントを実施（**資料⑤参照**）。

◆新婚世帯・子育て世帯家賃補助金

⇒市内の賃貸住宅に入居する新婚世帯及び市外から転入された子育て世帯の方に対して補助金を交付し、若い世代の定住促進を図る。市外から転入した新婚世帯の場合、２年間で最大４８万円の補助。平成２７年度は４件の交付実績。

◆ステージに応じた支援

⇒●不妊治療助成事業、不育症治療費助成事業

●妊産婦健康診査事業、妊婦歯科検診助成事業

●パパママ教室（妊娠・分娩・育児に関する情報提供、交流会による仲間づくり、悩み・不安の解消を図るため開催）

●ペリネイタル・ビジット事業（産前または産後早めにかかりつけの小児科医をつくることで、産後の育児不安を解決する事業）

●赤ちゃん訪問サービス（生後４か月までの赤ちゃんのいる全ての家庭に保健師や助産師が訪問し、身体測定や発育チェック、授乳や育児などの相談支援）

●幼児のフッ素塗布事業

●乳幼児健康診査事業（４カ月児・10 ヶ月児・１歳６ヶ月・３歳６ヶ月・５歳児健診の実施）

	●任意予防接種（ムンプス・インフルエンザ・Ｂ型肝炎） ●地域子育て支援センター“じゃん・けん・ぽん”の運営、放課後児童クラブ・なのはな児童館 ●母子・父子支援制度（母子父子寡婦福祉資金貸付制度、ひとり親家庭医療助成制度、母子・父子自立支援相談ほか） ●病後児保育室の運営（病気の回復期にある生後６ヶ月から小学校３年生までの子どもを対象に保護者の事情がある場合に預かる保育事業） ●にこにこ保育事業（保育所に入所している第３子以降、３歳未満時の児童の保護者の経済的負担を軽減） ●おおいた子育てホットクーポン事業（子育て家庭の精神的、身体的、経済的負担の軽減を図る）

②　未来を担う子どもの教育の充実			
重要業績評価指標（ＫＰＩ）	指標名	全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査	
	基準値	平成２６年度	小 5…0/6 科目　小 6…1/4 科目 中 2…3/8 科目　中 3…0/4 科目
	目標値	平成３１年度	偏差値 50 以上 （全教科が全国平均を上回る）
	実績値	平成２７年度	小 5…3/6 科目　小 6…1/4 科目 中 2…6/8 科目　中 3…0/4 科目
	指標名	大分県学力定着状況調査（小５） 「自分のことが好きである」の割合	
	基準値	平成２６年度	５６．６　％
	目標値	平成３１年度	６０．０　％以上
	実績値	平成２７年度	４８．５　％
	指標名	津久見市内中学校から津久見高校への進学率	
	基準値	平成２６年度	４９．０　％
	目標値	平成３１年度	５０．０　％以上
	実績値	平成２７年度	３５．７　％

主な 関連事業	◆地域協育力向上支援事業 ⇒学校・家庭・地域の協働のもと、子どもの学習機会の提供と学習習慣の定着を図るため、地域サポーターを講師とした「放課後学習クラブ」や「土曜寺子屋つくみ塾」を開催（**資料⑦参照**）。 ◆津久見高校地域振興協議会助成事業 ⇒津久見高校の魅力向上と情報発信を行い、特色ある高校作りを進め、市内中学校からの進学率向上を図るため、津久見高校地域振興協議会を通じた支援を実施。支援の活用によって、土曜講座受講などの「進学・就職力ステップアップ事業」、スポーツジュニア育成などの「小中高連携事業」、商業科の出展など「まちづくり推進事業」が実施され、平成 28 年３月の高校一次入試・当初志願において定員を超える応募があった。 ◆ふるさと教育の推進 ⇒子どもたちが、ふるさと津久見を誇りに思う心を持ち続けてもらうためには、まずは津久見のことをよく知ることが大切であることから、市の基幹産業である石灰石産業やその歴史、石灰石の特徴などを題材にした副読本「津久見の石灰石とわたしたちのくらし」を地元企業と協力して作成（**資料⑧参照**）。 ⇒伝統文化の保存・継承を地域団地・住民と児童との連携による交流を通じ、自らの地域を知る活動の促進と地域コミュニティの再構築を図るため、扇子踊り保存会のメンバーが市内小学校を訪問し、扇子踊りを指導（**資料⑨参照**）。 ⇒郷土への誇りと愛着を持ち、グローバルな視点で社会に参画する子どもの育成を図るため、市内小学校６年生を対象に「石灰石鉱山」及び「セメント工場」の見学・体験を実施。また市内中学生が参加した「河津桜」の植樹活動では、自らが汗を流して積極的にまちづくりに参画し、心温かい地域の方々との関わり・豊かな自然との触れ合いを体験した（**資料⑩参照**）。

<table>
<tr><th colspan="4">基本目標３：　安定した雇用の創出と労働力の確保</th></tr>
<tr><td colspan="4">①　地域資源を活用した産業の継承、再生、活性化</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重要業績評価指標（ＫＰＩ）</td><td>指標名</td><td colspan="2">第１次産業への新規就業者数</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年</td><td>２　人／年</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年</td><td>０　人／年</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重要業績評価指標（ＫＰＩ）</td><td>指標名</td><td colspan="2">津久見高校新規卒業者の市内事業所への就職者数</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>平成２６年</td><td>２５　人</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年</td><td>３０　人</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年</td><td>２４　人</td></tr>
<tr><td>主な関連事業</td><td colspan="3">◆移住就農者対策事業
⇒荒廃園を復元整備し、山椒・小みかん等植栽・管理。また、柑橘活性化に向けたワークショップを開催。新規就農セミナー・相談会に出展。

◆津久見みかん等ブランド化事業
⇒「津久見みかん」の段ボール・おすそわけ袋のデザインを募集し、新たに作成したパンフレットと併せてセット販売。先祖木の苗木を育成・植栽。津久見高校商業科の生徒が商品開発の授業で考案した「あまなつ氷」の試食会実施（<u>資料⑪参照</u>）。

◆ファーマーズスクール
⇒就農をめざす研修生を募集し、柑橘栽培の実習、模擬営農、座学等を実施。

◆「津あじ 白金」ブランド化事業
⇒津久見港で漁獲されるアジを「津あじ」と命名してブランド化を図ってきたが、その津あじの中でも、脂肪含有量が６％以上であり、活け締め・神経抜きしたものを「津あじ 白金」として差別化。高付加価値化を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="4">② 創業の希望をかなえる環境づくり</td></tr>
<tr><td rowspan="4">重要業績
評価指標
（ＫＰＩ）</td><td>指標名</td><td colspan="2">新規創業店舗数</td></tr>
<tr><td>基準値</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>平成３１年度</td><td>１　件／年</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>平成２７年度</td><td>８　件／年</td></tr>
<tr><td>主な
関連事業</td><td colspan="3">◆創業支援事業
⇒創業支援関係機関との連携による、相談窓口機能強化。相談者の相談内容やステージに応じた支援を可能にするため、相談者が必要とする支援の内容を判断し、津久見商工会議所指導員、関係機関等と連携した適切な支援を実施。

⇒創業したい方、創業して間もない方を対象に、経営・財務・人材育成・販路開拓等全４回にわたる支援セミナーを開催。全４回全て受講した方に修了書を交付し、会社設立時の登録免許税軽減等の特例を受けることが可能となっている（平成２８年度開催）。</td></tr>
</table>

４．地域創生交付金事業報告

（１）地域創生先行型交付金事業　・・・・（別紙）

（２）地域創生加速化交付金事業　・・・・（別紙）

５．総合戦略の改訂

改 訂 ：１

【改訂項目】

１．住みたい、住み続けたい、魅力あるまちへ

（２）具体的施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

①安心して暮らせるまち、暮らしにやさしい活気あふれるまちづくり

（ウ）賑わいの創出

【改訂理由】

地域創生加速化交付金を活用して、現在策定中の「津久見市観光戦略」について、その戦略に定める基本方針・重点戦略を推進するため、また中心市街地活性化の取組を推進するため改訂を行う。

【改訂箇所 新旧比較】

≪ 旧 ≫

（ウ）賑わいの創出

〇つくみん公園の魅力のさらなる向上、賑わい・集いの核としての活用促進

〇イルカ島を活用した観光・交流の強化

〇若者が希望するまちの賑わい創出に向けた埋立地の利活用

⇩

≪ 新 ≫

（ウ）賑わいの創出

〇津久見市観光戦略に掲げる重点戦略、施策の推進

〇中心市街地の活性化の推進

【推進していく具体的取組】

○“津久見の魅力を発信する”集客交流拠点整備

○“誰もが楽しく”周遊できる移動環境の整備

○“絵になる”景観の整備

○親子が遊んで学べる“地球体験”観光プログラム開発

○“津久見らしい”食と特産品の開発・提供・発信力の強化

○市民と観光客が“ともに賑わう”中心市街地の活性化

○“津久見市版”観光ＤＭＯ機能の構築

○市民が“自ら学び・楽しむ”気運の醸成

○“津久見ファン”ネットワークによる販路拡大と移住交流の推進

改 訂 ： ２

【改訂項目】

２．子育て世代に選ばれる、産み、育てやすい環境づくり

（２）具体的施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

②未来を担う子どもの教育の充実

【改訂理由】

平成 28 年 10 月、本市の教育行政の目標や施策の根本として位置づけられた「津久見市教育大綱」が策定されたことから、その大綱に定める基本方針・重点施策を推進するため、改訂を行う。

【改訂箇所 新旧比較】

≪ 旧 ≫

②未来を担う子どもの教育の充実

（ア）幼児・学校教育の充実

○学校・家庭・地域の連携による児童生徒の育成と学習環境の整備促進

（イ）基礎学力の向上

○授業力向上、学習規律の確立、家庭学習の習慣化の定着

○土曜授業や土曜寺子屋、学習クラブの活用など基礎学力向上対策の充実

⇩

≪ 新 ≫

②未来を担う子どもの教育の充実

（ア）幼児教育の充実

○生きる力の基盤を育むための幼児教育と小学校教育との連携推進

○「児童福祉」関係機関との連携の強化・充実

（イ）学校教育の充実

○生きる力の基盤となる確かな学力の育成

○智・徳・体（確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成）のバランスのとれた、より質の高い教育の推進

○家庭・地域と連携した特色ある学校づくりの推進

○一人ひとりの教育ニーズに応じた特別支援教育の充実

【推進していく具体的取組】

●土曜授業・夏季休業ステップアップ教室・土曜寺子屋・放課後学習クラブ・夏春の学習クラブを活用した基礎学力の向上と地域協育力の向上
●教科融合型学習の開発 ⇒「色とことば」「色とサイエンス」
●「プラン５」の実践と「３つの学力」（ＡＢＣ）の向上
※「プラン５」 ⇒ 学力向上施策・不登校防止対策アクションプラン・いじめ防止アクションプラン・体力向上アクションプラン・特別支援教育アクションプラン
※「３つの学力」⇒Ａ学力（知識・技能）Ｂ学力（思考力・判断力・表現力）Ｃ学力（夢と志力・自律力・絆力・実践力）
●「英検チャレンジ対策講座」など英語力向上に向けた取組の推進
●ふるさと津久見の特性を活かした「ふるさと教育」の充実
●「色とふるさとの探求学習」の開発・推進
⇒「色」をテーマとした教科融合型学習の開発